

DX ツール導入後の有用性に関する研究 ーDX 推進に有用な評価指標の体系化と提言ー

アブストラクト:

近年、デジタル技術を用いた課題解決への期待やニーズが高まり、多くの企業でDX への取り組みが行われている。その手段のひとつとしてDX ツールの導入が挙げられる。しかし、コスト削減のような従来の指標のみでDX ツールの導入効果を示せるとは限らず、結果的に有用性検証の困難性がDX 推進の阻害要因となる恐れがある。本研究では、「DX ツールの導入効果を評価し、その効果を向上させる方法が確立していない」という課題に対して、「DX ツール導入後にその有用性を評価する指標をツールごとに示すことで、有用性の測定や向上策の検討に役立てることができる」という仮説を立て、有用性評価指標体系図を作成した。これはDX ツールに関連する指標項目を広く列挙した後、各項目を類型化し、体系的に整理したものであり、定量・定性、直接・間接、短期・長期の観点を含み、網羅的な評価ができるように策定した。本分科会で作成した評価指標が有効かどうかについてはアンケート調査を実施し、評価指標の活用は有効であると確認できた。指標の網羅性や具体的な使用方法への課題に対しては、ケーススタディを示すことで、実務的な意思決定支援を具体化した。

DX ツール導入後の有用性評価を進め、特に長期的な観点で重要な「DX 化への影響」の指標を用いた評価の実施と、トップマネジメントや組織づくりをはじめとする取り組みを連動的に行うことで、更なるDX 推進に寄与できることを期待する。

キーワード:

DX ツール、有用性向上、評価指標、効果測定、費用対効果